

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	〒859-5361 長崎県平戸市紐差町450番地		
自己評価作成日	令和元 年 10月12 日	評価結果市町村受理日	令和元年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1地域との関わりを重視したアットホーム的な生活の場を提供している。2管理栄養士が地元の食材を生かしたメニュー計画を立案し、介護職員が利用者と一緒に食事作りをして家庭的な雰囲気を大切にしている。3地元の児童や婦人会及びボランティアの方々、移動図書館の方がホームに訪れ楽しいコミュニケーションの場を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは社会福祉法人白寿会の平戸事業部として特別養護老人ホームやショートステイ、デイサービスセンターを併設し、近隣には訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、平戸荘第二グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの事業を展開している。敬老会や家族会開催時には地域のボランティアによる大正琴や演芸の披露で入居者を楽しませるほか、ホームで開催する夏祭りには多くの地域住民の参加があり、地域と事業所が一体となって盛り上げたり、七夕の季節には入居者と近隣の中学生と一緒に飾り付けを行ったりするなど、入居者と地域住民がふれあひながら交流を深めている。ホームでは手づくり弁当を持参してドライブに出掛けたり小学校の運動会の応援に出向いたりするほか、管理者手づくりの竹で作ったそうめん流しを企画するなど、入居者が季節を感じながら楽しく過ごせるよう支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 平戸荘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時毎回、理念を職員で声出し唱和を行い、月ごとに目標を決め、チーム全体でその実践の共有を行っている。	ホームでは数年前に理念を見直し、地域密着型サービスの意義を踏まえた職員が理解しやすい理念を検討し、現在の理念を掲げている。職員は理念に沿った年間目標や個人目標を立て、日々理念に基づいた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	紐差町第3区の自治会に参加しており、地区の定期的な会合や回覧板の閲覧や地区の行事に参加し、地域の住民との交流を図っている。	ホームは自治会へ加入しており、地域での会議には管理者が主となり参加している。ホームの夏祭りや敬老会には地域住民の参加があり、小中学校との交流や高校生の介護職員初任者研修の実習受け入れのほか、市主催の福祉祭りには入居者の作品を展示するなど活発に地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学希望時はいつでも受け入れており、自治会や家族会との交流の場での相談や認知症カフェにも参加を行い、認知症の理解や支援に協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用状況や苦情 事故 ヒヤリハットについて報告し、意見、質問などを伺っている。そうした意見をもとにサービス向上に努めている。	運営推進会議は市職員・地域の第三者委員・家族で構成し、入居者の近況や行事に加えてヒヤリハットや事故についての報告もを行い、ホームの透明性を図っている。また、議事録とともに日頃の入居者の活動を収めた写真を家族へ送付しており、家族は入居者の日頃の様子を把握することができる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に必ず市の福祉部より出席頂き、活動、取組みを報告し、行政機関の要望や判断等を伺っている。また、市や社協の主宰する研修や講演会などにも積極的に参加している。	ホームでは市が推奨する介護を題材とした映画『ケアニン』の紹介と鑑賞の勧めや介護福祉士取得についての助成など、市担当者から情報を得ながら取り組んでいる。また、看取り・ヒヤリハットセミナーなど市や社会福祉協議会が主催する研修や講演会に参加し、交流や協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、第3者委員も参加され毎月会合を行っている。身体拘束は行わないとの決定事項のもとに職員も周知し、身体拘束の研修会も講師を呼んで実施している。	母体法人の各部署に苦情・相談・虐待防止・身体拘束についての委員を設置し、法人全体で身体拘束防止についての委員会を開催している。ホームでは毎月地域の第三者委員を交えての委員会を開催し、ホーム内で勉強会を実施している。	ホームでは身体拘束に関する指針を整備しているが、身体拘束に関するマニュアルの周知や同意書の整備の現状を踏まえ、改めて身体拘束に関するマニュアルを職員に周知するとともに拘束期間を明記した同意書を整備することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し月1回会合を開き、職員の意識向上を目指すと共に、虐待防止について講師を呼んで研修会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社協などが開催する権利擁護に関する研修会に参加され、積極的に参加しそれを持ち帰り職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて説明をし質問を受け理解や納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や状態報告時、行事等で家族から意見を聞き、要望を取り入れ、家族との連携を密にしています。	職員は入居者との日頃の会話の中で意見を汲み取るよう努めている。家族からは面会時、遠方の家族については電話で意見の聞き取りを行っている。ホームでは年1回家族会を開催し意見を聞き取るとともに家族へアンケートを実施し、意見をホームの運営に活かすよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や各種委員会、拡大会議を行い、意見交換の機会を設け、グループホームからの要望等について対応している。	ホームでは会議で出された意見を各部署合同での拡大会議などに諮り検討を行っている。また、職員の個人的な意見や相談についても解決に向けて検討している。管理者は職員の勤務状況に応じて有給休暇や希望休などの要望に沿った勤務表を作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会福祉法人白寿会就業規則を基に各職種、職員の実績、勤務状況などを把握して昇給人員配置等については配慮している。(キャリアパスシート)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する勉強会、新任者、中堅者の研修会参加を受ける機会を確保している。また、法人主宰の研修会を通し介護について、認知症について、各自が学び意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の三施設との親善風船バレー交流会参加や市の福祉協議連絡会主催のソフトバレー交流会、ボランティア活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談時に本人とのコミュニケーションを密に取り、傾聴の姿勢で接し、要望や困っていることなど確認し、積極的な声掛けで安心を確保できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が安心して相談できるような雰囲気や環境づくりに努め、常に家族様からの要望に耳を傾けられるように対応を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握、ご家族やケアマネジャーと密に情報交換を行い、又職員で情報交換し合い必要なサービスを見極めることが出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常に一部の家事の手伝いや、作品作りを職員と一緒にやり、より良い生活が出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況も考慮し、日頃の状態や病院受診時の内容を報告しながら、介護協力出来る様な事柄等伝えたり、その場合に応じて家族との絆を大切に出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会や家族との外出、友人や知人との面会、自宅までの外出によるふるさと訪問を行い、馴染みの人や馴染の場所などへの関係性を大切にできる様支援している。	ホームでは入居者が以前住んでいた自宅やその周辺を訪問できるよう支援し、自宅でひと時を過ごしたり、以前住んでいた馴染みの場所へ出向いたりするなど、馴染みの場所との関係を継続するふるさと訪問の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握し、個人の性格や認知症の状態、身体機能に合わせ利用者同士が関わりをもてるように座席を配慮し、職員も一緒にコミュニケーションをとりレクリエーション等をして職員も加わり仲介役として活動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去されて数年が経過しても町で会ったら声を掛け近況を話したり、関係性を大切にしている。必要に応じては相談、支援に努めている。また、死亡退去された方の葬儀には必ず参列し、初盆には管理者がご挨拶に訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を尋ね知り、意向を把握している。本人の意思確認が困難な場合には家族に尋ねたり気持ちを汲み取ったりみんなでニーズを見出している。	職員は入居者との日頃の会話の中で要望や思いを汲み取り、意思の疎通が困難な方については家族の面会時に伺ったり日頃の様子から思いを推察し、入居者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染の暮らしを把握しこれまでのサービスの経過を見直しながらアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックや身体状況、食事摂取状況、排泄状況のチェックを行い、現状の把握に努めている。又、利用者様の出来る事を活かせるように、野菜の皮むきや縫い物、洗濯干し、たたみ毎日使う新聞折り等を依頼して作業としても取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者は利用者の把握に努め、担当者会議やグループホーム会議にて意見交換を行っており、本人やご家族様の希望を聞き、計画を作成している。	ホームではケアプラン見直しの際にサービス担当者会議を開催し、入居者・家族から聞き取った要望や入居者の担当職員が中心となり把握した情報から解決すべき課題やニーズを抽出し、それらをもとにプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果は毎日のケアノートに記載、モニタリングも月1回記載し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化により眼科、歯科など定期受診以外の受診も行っている。本人の希望を聞き、ふるさと訪問も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区で行われる行事に参加されたり、文化交流を行い、楽しみを持って地域の方とのふれあいを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医を決定している。異常な特変があればすぐに報告し、対応している。病院、家族、ホームとの連携に努めている。受診に診療経過表を持参し記録や服薬確認が出来る様に努めている。	ホームでは離島から入居に至った入居者については入居前のかかりつけ医への受診支援は困難であるため、本人や家族に了承を得てホームのかかりつけ医へ変更を行っている。職員は受診時に診療経過表を持参し、必要に応じて家族に受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設として特養に看護師が常駐している事により、体調不良時や急変時の指示を仰ぎ利用者が適切に受診できる様支援している。又、いつでも相談できる関係を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーの提供と面会にて病院の多職種と情報交換、相談に努め、病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より余命宣告を受けた時点で話し合いをして同意書を交わし、状態の変化に応じて食事形態を話し合ったり補助食品を取り入れるなど、管理栄養士との連携も図りながらチームで取り組んでいる。又、状態の安定している時期にご兄弟や姉妹との面会の場を設けたり出身地への訪問をしたりと関係者と共に支援に取り組んでいる。	ホームでは入居時に終末期に至った場合に望む支援を箇条書きにして本人や家族に説明し、本人や家族がチェックを入れた同意書を保管している。医療的措置の治療が必要となった場合には隣接する系列の特別養護老人ホームへの移設も可能である。	終末期においては家族の思いにも変化があることを踏まえ、その思いに沿った支援が必要であることから、終末期に至った場合にはあらかじめ看取り介護の同意書を整備して同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署の救命救急の講習を受け、緊急時に対応できるようにしている。また、職員は吸引の勉強会や夜間急変時の勉強会を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間の呼集訓練や夜間消防署や地域の消防団との夜間避難訓練を開催している。職員は初期消火操法の大会にも参加している。火災を未然に防ぐための対策としては、防災カーテンを使用したり、コンセント部分などの細目な清掃に努めている。消防の勉強会も定期的に行っている。	前年度は避難訓練が未実施であったが、本年度は母体法人内の事業所と合同で訓練を実施している。ホームでは緊急連絡網に沿った夜間緊急呼び出し訓練を抜き打ちで実施しており、職員の防災意識の向上に努めている。今後、緊急時における職員の役割分担を明確にする意向にある。	有事の際には地域住民の協力が重要であることを踏まえ、避難訓練の際には地域住民に協力を呼び掛けることが望まれる。また、消防署の立ち会いのもと、当ホームの避難方法等の詳細について具体的に指導を受けることで、今後の防災対策に活かすことに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を用いて、親しみやすく安心できるような対応を行っている。	入居者と職員の会話は穏やかな雰囲気であり、方言を交えた会話の中にも入居者を尊重した言葉遣いとなっている。排泄の場面でも職員と入居者が言葉を交わさなくとも自然な介助がなされており、職員は日頃から入居者の意思を尊重した姿勢で関わり、信頼関係を築くことに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢ができる事業掛けを行い、希望を話せる様な雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、1人1人の性格や状態に応じて、ゆっくりとしたペースで生活が出来る様に、無理をしないように支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など洗面所の鏡の前で自分で髪を整えたり、美容師資格を持った職員により、ボランティアで散髪も定期的に行っている。1人1人の個性にあった衣類を毎日コーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭き、お茶入れ、配・下膳茶碗洗い等を利用者様にも依頼している。誕生会ではメニューを本人から聞き、食べたいものを取り入れている。野菜の皮むきや牛蒡そぎなど手伝ってもらったり、梅干しづくり、らっきよ漬けなど、簡単な作業を行っている。	ホームでは母体法人の管理栄養士が作成した献立をもとに調理担当職員が調理しており、職員の自宅で収穫した果物を使用した手づくりのデザートや地元の食材などを使用した食事を提供している。職員は入居者が野菜の下ごしらえなどに参加してもらうことで食事を楽しむことに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人に合った形態、量、嗜好を取り入れながら管理栄養士のたてた献立により、バランスのとれた食事を提供している。又、栄養補助飲料やゼリー等を取り入れ1人1人の状態に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	緑茶にて毎食後の口腔ケアを行っている。自力では困難な方には介助行ない、義歯は外して洗口腔内の清潔に努めている。又、義歯洗浄を用い清潔保持に努めている。舌苔のある方には、舌ブラシ使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入所者が日中はトイレにて排泄されている。訴えない方については本人の排尿間隔を推察しながらトイレ誘導を行い、尿汚染が無いように取り組んでいる。また、夜間でもポータブルトイレで排泄可能な方は介助行ない、自立支援にむけた支援を行っている。	ホームでは入居者がトイレで排泄できるよう支援しており、布パンツを使用する方が半数を占め、その他の方についてもオムツ使用の方はおらずリハビリパンツで対応している。職員は入居者の排泄パターンを把握しており、昼間は全入居者がトイレで排泄することができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や上下肢運動等を行い、腸の蠕動運動を促進に排便を促している。起床時に早朝に牛乳、10時にカスピ海ヨーグルトを提供している。排便困難時には水分、シソジュース、果物、さつま芋を摂取して頂き、便秘予防、改善に努めている。なるべく下剤を用いず排便コントロール出来る様に目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	薬湯やゆず湯など季節感を味わって頂き家庭的な雰囲気を楽しんでもらえるように支援している。体調、体力など本人の状態により回数や時間帯は職員が決めているが、本人の身体状況や希望に合わせてシャワー浴、足浴、清拭を行っている。	ホームは週3回の入浴実施を基本として入浴支援を行っている。代替日を設けて毎日入浴の準備をすることで入浴を拒否する方や体調の変化などにも臨機応変に対応できるよう努めている。入浴ができない場合は清拭などを行い、入居者が清潔に過ごせるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、傾眠の場合等は夕食後もホールで過ごして頂き遅めに床につかれたり本人のその時の状況や希望に応じて支援している。夜間、不眠時は話を聞いたり温かいお茶と一緒に飲み安心して休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診などで内服薬が処方になった場合は口頭で説明し送り帳を活用するなどし、各自が副作用の出現に注意し、症状の変化にも気づく事ができるように努めている。又、服薬介助時には2人での氏名確認により誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	故郷訪問をして懐かしい場所へ出かけている。また、季節に応じて花見や海遊び、そうめん流しなど気分転換が図れる様支援している。また、誕生月の方には嗜好品を尋ねメニューを取り入れ楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周囲の散歩で季節の実を取ったり、利用者のみんなで季節の花見やドライブに外出し楽しんでいる。個人にあわせふるさと訪問も行っている。又、家族との外出の機会を設け、自宅や外食など楽しく過ごして頂けるように配慮している。	ホームでは各入居者のふるさと訪問の支援や季節に応じて花見に行くなど支援し、つつじ見物には入居者全員が参加することができている。また、海浜公園などへのドライブのほか、入居者の誕生日には本人が気に入った服を買う買い物支援や外食支援を行うなど、入居者本人に喜んでもらえるよう工夫を凝らした外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品など買い物等は希望有れば随時検討している。高価な物の場合はご家族にも相談の上購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ利用者様の状態を電話で報告したり、時間があれば本人と電話で話したりと配慮している。携帯電話をお持ちの方には、自由に連絡できるように出来る限り配慮している。年賀状は毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、食事の際には音楽を流して和みの空間を心がけている。また、居室には本人の写真やバースデイカードを飾るなど自分の空間として楽しんでいる。	ホームの共用空間は広々とし、食事や憩いのひと時を過ごしている入居者の姿が窺え、数名の入居者が慣れた手つきで食材の皮むきなどを行う姿があり、入居者が思いおもいに過ごしている。フロアや居室は清掃が行き届き、清潔を保持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	既に入居された方は自分の場所を持っておられ、新しく入居された方はとまどいがあるため、職員が配慮して、トイレなど目印や声掛けなど対応し過ごしやすいように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や物を持ちこまれた方もいる。花を飾ったり、プレゼントを飾っておられる。各部屋に家族写真も飾り、安心して過ごされている。	各居室には入居前からの馴染みの物を持ち込んだり、家族の写真や思いのあるもので装飾したりしている。職員は入居者が安心して生活できるよう工夫しており、各居室ともその人らしい落ち着いた雰囲気が見えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のクローゼットに衣類の表示はしているが、収納できる方は少ない。その為職員ともに収納を行っている。		